

H30年度 自己評価まとめ				
		平均		
1. 保育の理念・指導計画 (はい) 1・2・3・4・5 (いいえ)				
(1) 園の教育理念や教育方針を理解している。		1, 6		
(2) 園の教育方針に共感している		1, 5		
(3) 園の方針、園長の考え方について園長や職員と話し合っている		2, 3		
(4) 園の目指す幼児の姿を具体的にイメージ出来る		2		
(5) 子どもからの様々なサインを見逃さず子どもの求めている援助が出来る		1, 4		
(6) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解している		2, 6		
(7) 園の方針を指導計画や保育にいかそうとしている		1, 7		
(8) 指導計画は教育・保育要領、全体の計画、幼児の実態などをもとに考えて作成している		1, 3		
(9) 指導計画は幼児の興味関心、これまでの生活の様子、予想されるこれからの生活などを考慮して作成している		1, 3		
(10) 長期の指導計画はマンネリ化しないよう常に見直しを行い、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるように作成している		1, 6		
(11) 短期の指導計画は子どもの実態に合わせて、自由に変更出来る順応性のあるものになっている		1, 3		
2. 環境構成				
(1) 安全で清潔感のある環境構成をしている		1, 6		
(2) 指導計画に基づいて、幼児が主体的に関わりたくなるような環境を構成している		2, 3		
(3) 幼児が自ら活動を生み出していけるような素材との出会いを考えている		2, 5		
(4) 幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をしている		2, 9		
(5) 遊びに必要な遊具や用具、素材などの質・数量を配慮して用意している		2, 5		
(6) 楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境構成をしている		1, 7		
(7) 幼児の動線、目線に配慮した環境構成をしている		2, 1		
(8) 幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成している		2, 1		
(9) 幼児の発達や生活を見通して環境を構成している		2		
(10) 異年齢の幼児が自然に交流出来るような環境を構成している		2, 5		
3. 保育と計画の評価・反省				
(1) 保育計画が適正であったか振り返りを行っている		1, 9		
(2) 反省・評価を次の保育と計画に活かしている		1, 5		
4. 保育の在り方・子どもへの対応				
1) 健康と安全				
(1) 朝の登園時には特に検診を大切に子どもを体調が悪くないかを確認、体調がよくない時にはその子の様子を気にかけて必要な配慮を行っている		1, 4		
(2) 怪我や事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成や言葉がけを行っている		1, 3		
(3) 事故や怪我が起きた時は、園長あるいは主幹に報告している		1, 2		
(4) 内に危険な箇所はないかどうか、危険な遊び方をしていないか、活動が年齢や能力に対して危険でないかなどを常に観察している		1, 6		
(5) 子どもが危険な場所が分かり、安全に気をつけて行動できるように働きかけている		1, 4		
(6) クラスの中の清掃、換気、室温などに気をつけて保育している		1, 6		
(7) トイレの清掃やトイレの使い方について配慮し、幼児にも正しい使い方を具体的に示している		1, 4		
(8) 外遊びや散歩など戸外で遊ぶ機会を多く取り入れている		1, 5		
(9) 保育者自身が積極的に子どもと関わり遊んでいる		1, 4		
(10) お漏らし等失敗をしたときに、その都度優しく対応し、子どもを傷つけないよう配慮している		1, 1		
(11) 午睡時には、子守歌を歌ったり背中を優しく叩くなど、安心して心地よい眠りにつけるよう配慮している		1, 2		
(12) 衣服の脱ぎ着に際して、せかしたり、着せてしまったりしないで、自分でやろうとする子どもの気持ちを大切にしている		1, 5		
(13) 子どもの体調不良や怪我などの情報を職員間で共有している		1, 4		
(14) 玩具・遊具・施設設備の安全に常に留意し、定期的に点検を行い、破損の有無の確認をしたり、不具合の個所に対策をとったりしている		1, 5		
(15) 子どもの病気やアレルギーについて、確認・対応をおこなっている		1, 3		
2) 食事				
(1) 子どもが残さず食べることを強制したり、偏食を直そうとして叱ったりしていない		1, 4		
(2) 子どもが落ち着いて食事が楽しめるようにしている		1, 3		
3) 人間関係				
(1) 子どもは一人の人格をもった存在として謙虚に接している		1, 3		
(2) 園生活の中で、自分で出来たという充実感を味わえるような体験を取り入れている		1, 5		
(3) つまづきや葛藤、けんかななどの経験が成長に欠かせないものとしてとらえ適切に対応している		1, 4		
(4) 子どもが力を合わせて何かやりとげる機会を作っている		2, 1		
(5) 遊びのスペシャリストになっている		3, 2		
4) 環境				
(1) 子どもが自然現象の不思議さに気づけるようにし、一緒に調べたり考えたりしている		2, 5		
(2) 子どもが身近な動植物の世話をする中で、生命の尊さに気づくようにしている		2, 6		
(3) 毎日の活動の中で数や量にふれる機会を作っている		2, 2		
(4) 子どもの発達に適した玩具や遊具を用意し、好きな遊びが出来るようにしている		1, 9		
5) 言葉				
(1) 「ありがとう」「ごめんなさい」などの生活に必要な言葉が自然に使えるように保育している		1, 5		
(2) 一人ひとりの子どもをよく観察し、その場に適した言葉がけを心がけている		1, 7		
(3) 正しい言葉遣いや声の大きさに配慮して子どもに話しかけている		2, 2		
(4) 子どもがしたいこと、してほしいことを話している時、最後までゆっくり聞くよう努めている		1, 6		
6) 表現				
(1) 水・砂・土・紙・粘土など自然の素材に触れて楽しむ機会を多く取り入れている		2, 3		
(2) 音楽に合わせて歌ったり踊ったりして楽しめるように援助している		1, 7		
(3) 道具の正しい使い方を一人ひとり丁寧に教えたり、見守ったりしている		1, 9		
(4) 様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りに気づいたり心地良さを感じる機会を作っている		2, 1		
7) 障害児保育				
(1) 障害のある子どもの保育環境を整え、保育内容や方法に配慮している		1, 5		
(2) 障害のある子どもの保護者との話し合いの場を設けて、不安や焦りなどの悩みを抱えている保護者の気持ちの援助に心がけている		2, 3		
8) 長時間保育・延長保育				
(1) 好きなことをしてくつろげる空間や遊具を用意している		1, 6		
(2) 子どもの様子について、職員間で引き継ぎを行い、きちんと保護者に伝えている		1, 7		
(3) お迎えが遅くなった子の不安な気持ちを汲んで対応している		1, 7		
9) 乳児保育				
(1) 授乳は抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながらゆっくりと飲ませている		1, 4		
(2) 離乳食については、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの子どもの状況に配慮して行っている		1, 5		
(3) おむつ交換時には、優しく声をかけたり、スキンシップを行っている		1, 3		
(4) 一人ひとりの生活リズムに合わせて睡眠をとることが出来るように配慮している		1, 3		
(5) 外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている		1, 4		
(6) 喃語にはゆったりと優しく応えたり、触れ合い遊びを行っている		1, 5		
(7) 睡眠時には安全に配慮し、呼吸と体位のチェックを行い記録をしている		1, 2		
(8) 事故防止に努めた保育を行っている(おんぶ、抱っこ、シャワー、おむつ交換など)		1, 5		
(9) 玩具・遊具については必要に応じて消毒したり衛生面に配慮し、破損の有無を毎日確認している		2, 1		
(10) 子どもの成長の流れを把握し、今の段階にいるか、今後どうなっていくかを理解している		2		
(11) 成長段階を理解したうえで、玩具や遊びを提供している		2		
(12) 子どもと関わる時、優しく丁寧に関わることを意識している		1, 7		
10) 保護者支援				
(1) 子育てのパートナーとして「保護者の子育てを支援する」という役割を常に意識している		1, 6		
(2) 保護者の子育てに対する不安や悩みを受け止め、適切に助言、援助している		2, 1		
(3) 送迎時の身支度をさりげなく助けながら言葉を交わすようにしている		1, 7		
(4) 保護者の考えや提案を積極的に聞き、保育にいかしている		1, 7		
(5) 保護者からの相談内容などを自分一人の問題にせず、園長・主幹などに相談している		1, 3		
(6) 相談は記録し、継続的な支援をしている		2, 2		
(7) 連絡帳や送迎時などに日常の子どもの様子を伝えあっている		1, 4		
(8) 文化や宗教・習慣を尊重し、それぞれを受け入れ、信頼関係が出来るようにしている		1, 7		
(9) 子どもの体調が良くない時など保護者に電話する際、細かい配慮をしている		1, 2		
(10) 保護者から突然お迎えが遅くなると連絡があった時など、快く対応するよう努めている		1, 6		
5. 保育者としての資質や能力・良識・適正・組織の一員として				
(1) 保育者として専門知識や技能を身につけている		2, 6		
(2) より高度な専門知識や技能を身につけようと研修に参加している		2, 9		
(3) 幼児の性格や個性を把握できるよう努めている		1, 4		
(4) 保護者に対し、子どものことや自分の保育のことを分かりやすく話すことが出来、保護者との信頼関係を作るよう努めている		1, 7		
(5) 仕事の手順を考え、能率よく行っている		2, 3		
(6) 先の行事等を考え、見通しを持って保育している		2		
(7) 子どもや保護者との間には公平さを欠かさないようにしている		1, 8		
(8) 園の消耗品や教材は節約して使い、後で使う人が使いやすいようにしている		1, 6		
(9) 服装・髪型・身だしなみなど清潔感のあるものを心がけている		1, 2		
(10) 職務上知りえたプライバシーに関する情報などの秘密を守っている		1		
(11) 園の重要書類は持ち出していない		1, 1		
(12) 教材・教具の管理、点検に気を配っている		2, 8		
(13) 締め切りのある仕事や提出物は締め切り日をきちんと守っている		1, 8		
(14) 園の職員全員で一つのチームであることを意識している		1, 3		
(15) 職員会議などで保育の質の向上につながる発言をしている		1, 8		
(16) 他の意見を素直な気持ちで聞いたり、受け入れたり出来る		1, 4		
(17) 自分の役割を理解している		1, 6		
(18) 不審者が侵入した時や、災害が起きた時、自分がどのように対応するか分かっている		2, 2		
(19) 適切ではない対応をしている他の職員の行為を目にした時、助言ができる		3		
(20) 年度の目標を明確にしている		2, 3		
(21) 自分が目指す保育者像がある		1, 8		
(22) 自分の気持ちをうまく表現できない子どもの心情をくみ取るよう努めている		1, 3		
(23) 子ども達の中に人を信頼する気持ちが育つような関わりをしている		1, 4		
(24) 保育の主役は子どもであることを常に心に留めている		1, 4		
(25) 驚いた時やハッとした時、大きな声を出さずに落ち着いて対応できる		2, 7		